

出題分析		
試験時間 80 分	配点 ※	大問数 5 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>大問の構成は、長文読解 2 つ、会話文、文法・語法、語彙の計 5 題で昨年そのままであった。各小問数も昨年同様である。読解の設問では、例年通り真偽判定や主題選択、空所補充問題が出された。会話文は 2 つ出題され、文法・語法は空所補充の形で出題される。語彙では空所補充だけでなく、同義語選択が引き続き出題された。語数については、各大問で目立った減少はないが、大問 I から III にかけて各々 30~70 語程度少なくなっている。立命館大英語では、深く英文を読み込む力は当然のこと、文法・語法・語彙の知識量も必要とされる出題内容になっている。</p>		

※ 学部・型・方式により、配点が異なる。入試要項を参照。

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	長文読解 「カナダ沖の海の資源とその保護のあり方について」 ○ 語数：853 語 (昨年) 880 語	保護水域に指定されているカナダ沖の海の資源の保護のあり方について、海底調査の様子を交えて論じた文章。総じて標準的な問題だが [2] の真偽判定は例によって悩ましいものがある。(3)は名前の付け方について本文からは読み取れない。(4)は釣り具の回収について言及されていない。	やや難
II	長文読解 「建造物の建設にかかる温室効果ガス排出問題について」 ○ 語数：763 語 (昨年) 831 語	建造物の建設後だけでなく建設時に排出される温室効果ガスの悪影響に関する文章。[1] の空所補充(1)は、空所直後の内容から、演説を行った会場そのものについての言及が入るのが自然である。[2] の指示語問題は全体的に正解を絞り込むのが難しい。選択肢の多くが本文の内容の言い換えや要約になっているので注意。	やや難
III	会話文 ○ 語数：[1] 118 語 [2] 173 語 (昨年) [1] 181 語 [2] 221 語	[1] が趣味の写真について、[2] が古代エジプトの展覧会での会話。会話特有の言い回しはほとんどなく、流れもつかみやすい。[1] の ㊦に入る(3) I could give it a try. の it は「写真のモデルになること」を指す。[2] の ㊧に入る(1)の It took me a while. の a while は幅のある表現なので、「6 か月ほど」という期間にも対応可能。	標準

設問別講評			
IV	文法・語法	標準的な問題がほとんどだが、(D)と(H)はやや意表を突いた問題。(D)は、付加疑問の問題だが、文頭の主語の No one が不特定なので、代名詞は they で受ける。(H)は、What the president is が主部になることが分かれば、what 節と主節とで1つずつ本動詞 is が必要になることが分かる。	標準
V	語彙	[1]は解答となる選択肢は標準的なものであったが、(A)(4) teller 「(銀行などの)窓口係」や(D)(4) twinkled 「(目などが)キラキラ光った」などは戸惑ったかもしれない。[2]は(E)の anguish = (2) agony 「苦悶」が受験生にとっては難易度が高かっただろう。	標準

設問構成 (設問数・形式・内容)								
大問番号	設問数	選択式						
		質疑応答	真偽判定	主題	空所補充	指示語	同義語	その他
I	3	4	5	1				
II	2				8	5		
III	2				4・4			
IV	1				8			
V	2				5		5	

※「選択式」の欄の数値は、各設問内の小問数を表す。

合格のための学習法
立命館大学の入試で高得点を取るためには、英文読解力をつけることが最も重要である。そのためには1学期の早いうちに、暗記ではなく理解を重視した、英文を読むための文法を身につけよう。同時に毎日こつこつ辞書を使って時間をかけて英文を読む練習をしよう。スピードを気にすると英文読解は身につかない。じっくり時間をかけることが大事だ。もちろん市販の単語帳を使って毎日単語・熟語を覚えたり、過去問などを通して文法問題や会話文など、立命館大学が出題する多様な問題形式に慣れたりすることも重要だ。しかし英語の勉強時間の大半を英文読解にかけるべきだ。英文読解への取り組み方が合否を決める。